

単元名 買えますか？ 買えませんか？

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 物の値段をおよそ何百円と見て、これを活用し判断する方法を理解し、買えるか買えないかを判断することができる。

(2) 物の値段をおよそ何百円と見て、買えるか買えないかを判断し、その理由を説明することができる。

(3) 買えるか買えないかの判断をする問題場面に関心をもち、進んで取り組もうとする。

## 標準的な展開例

03040307\_001

| 学 習 活 動   | 留 意 事 項 など  |
|---|---|
| <p>1 100円を基にして、いくつかの品物が何百円で買えるか買えないかを判断する。[p. 104・p. 105]</p> <p>○ のり、ノートが区切りのよい代金で買えるか買えないかを考える。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ 1つが100円玉何まいで買えるかをもとに考えよう。</p> <p>○ クレヨンとはさみが区切りのよい代金で買えるか買えないか判断し、800円で2つを買えるかどうかを考える。</p> <p>○ 1000円で買えるか買えないかを判断する「練習問題」に取り組む。</p> | <p>・理由を根拠を挙げて説明させる。</p> <p>・のりは100円で買え、ノートも200円で買えることを確認し、のりとノートが300円で買えるか買えないかを理由とともに発表させる。</p> <p>・クレヨン500円、はさみ300円で買えるかどうかを判断する。両方その額で買えないことを確認する。</p> <p>【評】買えるか買えないかを区切りのよい数を使って説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・100円□個分よりも大きい小さいかを基にして考えさせる。</p> |

## 【 備 考 】

第2学年では100円玉数枚で、100円前後の品をいくつ買えるかを簡単な見積もりで判断する学習を行った。また、第4学年になると概数について学習する。そのため、第3学年ではその間の段階として、簡単な概数の概念に触れさせる。そして、身近な事例を取り上げることで、概数の必要性を感じさせたい。